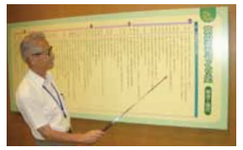
ひと･まち交流館 京都１階　京のまちかど

京都のまちの成り立ちや現状を、分かりやすく紹介する展示コーナーです。まちなみを再現した模型やタッチパネル式の映像装置などがあり、京都のまちづくりを楽しく学べます。



平日･土　9:00～21:30
日･祝　9:00～17:00
第３火曜日休み

随時実施
ボランティアによる展示案内

賛助団体

一般社団法人 相続相談センター
古材文化の会
大阪ガス
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
株式会社ゼロ・コーポレーション
桂坂学区自治連合会
株式会社 アルパック 地域計画建築研究所
京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）
株式会社フラットエージェンシー
学校法人 京都造形芸術大学
京都駅ビル
京町家居住支援者会議
京都・上京 織成舘
社団法人 京都市観光協会 KYOTO CITY TOURIST ASSOCIATION
社団法人 京都府建築士事務所協会
倫徳
都住研 都市居住推進研究会
平安建材 株式会社
松ケ崎学区自治連合会
MISAWA ミサワホーム近畿
有瑞学区
RITSUMEIKAN
ROHM ローム株式会社

京兎物語　ペンネーム ひこ

㈶京都市景観・まちづくりセンター

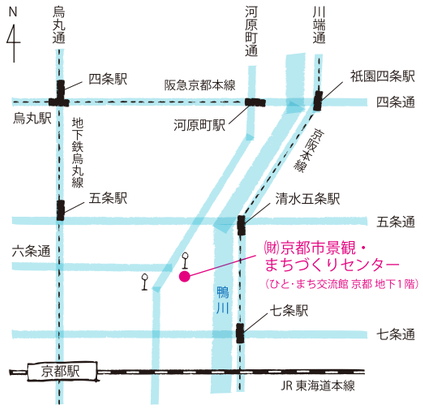
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83 番地の１
（河原町五条下る東側）　ひと・まち交流館 京都 地下１階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704

開館時間
平日･土　9:00～21:30
日･祝　9:00～17:00

休館日
毎月第３火曜日（国民の祝日にあたるときは翌日）
年末年始（12月29日～1月4日）

交通系統
バス　市バス４･17･205号系統「河原町正面」下車
電車　京阪電車「清水五条」下車　徒歩 ８分
　　地下鉄烏丸線「五条」下車　徒歩 10 分

携帯サイト



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

FSC ロゴ
BEGETABLE OIL INK
KES ステップ１登録

京都市景観･まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design：Marble.co

へぇ。こういう「道」も京都のまちを作っているのね。
It's interesting!

ニュースレター　京まち工房　第 52 号　2010 年 9 月　編集・発行　㈶京都市景観・まちづくりセンター

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 52

㈶京都市景観・まちづくりセンター　ニュースレター

特集　膏薬辻子（こうやくのずし）のまちづくり

まちづくりイベント
景観・まちづくり大学
「京のまちかど」で歴史をのぞく
京町家まちづくりファンド PRイベント

まちづくり報告
「堀川ツミキ Project」
歴史の詰まった京町家を「直して貸す」
「京町家まちづくり調査」の盟友集まる

コラム
私と京都
ふっきーの徒然なるままに
スタッフのつぶやき

http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

ちょっと気になる

特集 膏薬辻子（こうやくのずし）のまちづくり

— 下京区 新釜座町 —

新釜座町 膏薬辻子

整然とした碁盤目状の表通りから街区の内側へと入っていく「辻子（ずし）」。四条通りのにぎわいから一歩入ると古き良きまちなみが今も残る狭い路地があります。町内の中心を通り抜ける「膏薬辻子（こうやくのずし）」の由緒は平将門をこの地で供養した空也上人に遡るともいわれ、平将門ゆかりの祠は、今も町内にあります。
新釜座町は、そんな歴史の深い、静かなまちです。

文＝木下良枝、森重幸子

1 まちづくりのきっかけ

まちづくりのきっかけは、町内の変化でした。長い間、職住一体の住まいとして住み継がれてきた新釜座町でしたが、セカンドハウスや木版画屋、居酒屋など、色々なタイプの住民さんがやって来たのです。ありがたいことに今いる方は良い人ばかりですが、止まらない変化に、常に心配をするような状態になりました。そして、ついに大きな敷地での建替えの話が持ち上がったところで、「何かしないと！」と立ち上がったのです。
何もせずに変化にさらされていくのではなく、まずは地域に対して住民がきちんと向き合い、理解し、そして対外的にもアピールをしていくことを考えだしました。

2 「新釜座町のこれからを考える会」発足

昨年、町内会に「新釜座町のこれからを考える会」を立ち上げ、会の中で町内の暮らしやまちなみのことを議論しています。
ここの静かな暮らしや古き良きまちなみが好き、という住民の思いを次世代につなげるため、どんなまちづくりの取組をしていくかについての話をしています。
しかし、議論をする、といってもいきなりできるものではありません。センターのまちづくり活動支援を活用して、まちづくりの専門家に牽引役としてサポートしてもらっています。

3 住民の思いを形にする「膏薬辻子式目（新釜座町ルール）」制定

今のような新釜座町を守っていくため、式目（ルール）作りにとりかかっています。住民が地域の現状・これからと向き合っていくことを目的に、まずは暮らし方を考えることからはじめました。今後は暮らしだけでなく、まちなみについても考えていく予定です。これから先、新しい住民が来たり、新しいお商売が始まったり、家を改築したり、新築したり、色々な変化が予想されます。どんな変化があっても仲の良い町内のままであるよう、どんな風にお互いに思いやって暮らしていくのがこの町内に相応しいのか、各自の思いを形にしていきたいと考えています。

例えば、
- **何かあった時は話し合いで解決しましょう**
- **火の用心に心がけましょう**
- **路地を清潔にしましょう**
- **狭い路地は大通りと違い小さい音がよく響くので、深夜は気をつけましょう**

などなど、当たり前のことですが、町内という共同体を守っていくためのルールです。

まちなかにあり、交通の便もよく、静かで、京都らしいまちなみの残る新釜座町。変化の波にのまれず、地域の良さを受け継いでいくための一歩を踏み出しました。まちづくりはまだまだ始まったばかりですが、これからも専門家、大学、センターとパートナーシップで取組を積み重ねていきたいと思います。

実際に行った新釜座町の取組

4年間続けている花灯篭

鉾町の中にあり、人の賑わう祇園さんの夜、辻子を柔らかいあかりで灯しはじめました。あかりは住民の手作りです。これまで膏薬辻子を知らなかった人達も、あかりに誘われ、おのずと辻子を歩く人が増えます。皆で大事にしている辻子という気持ちが伝わるとよいのですが…。花灯篭は今年で４年目。年々少しずつ改良を重ね、まちなみに合った品の良い灯篭になってきました。ちなみに版画屋さんの前は版画バージョンの手の込んだ作品です。
もちろん、雨の降る祇園さんにあわせて防水加工もしています。

おんぼり灯る花灯籠

今年の夏に出来上がった「室外機カバー」

辻子に顔を出している１０台のエアコン室外機に木製格子のカバーをつけました。こちらも手作りです！ホームセンターで材料を買い、皆で協力して①カンナをかけて、②のこぎりで切り、③パーツを組み立て、④色を塗って、⑤組み立てながら設置する。日曜日と手の空いた平日に数日かけて、工程を進めました。オモテに室外機のない方や、京都大学の学生さんも一緒に汗をかき、実際に戦力にはなれずとも、見守り、差し入れ、時間を見つけてひょっこり顔を出して声をかけ、たくさんの顔ぶれの中、室外機カバーは出来上がりました。皆で作った景観だからこそ、より一層大事にしていきます。

祇園祭に間に合わせるため雨の中、設置

今日は天気がよいから散歩でもするか。

景観・まちづくり大学

— 2010 年 夏期イベント報告 —

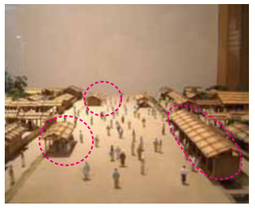
京のまちづくり史セミナー　第１回

8/7 開催！

まちづくり史基礎講座①

京の道とまちの成立　— 古代から中世 —

講師：髙橋康夫氏　（花園大学教授・京都大学名誉教授）



道の中に店などができ、住みこなされるまち

今年度のテーマ「道とまち」の初回として、京都の都市空間の原点である平安京の計画理念と住民が住みこなすことで道やまちが変化していく経緯を中心にご講義いただきました。平安京は、東西の大路によって「条」、南北の大路によって「坊」と区画され、大路と小路を介して秩序だった構成となっており、「道をつくる」ことで都市が建設されました。都市の造営の中で計画的につくられた道は、住民が住みこなす中でつくり変えられました。道が共用の場「公界（くがい）」と考えられ、道の中に宅地や田地化した「巷所（こうじょ）」ができ、街区内には土地を有効利用するために通した新しい道「辻子（ずし）」が現れました。このようなまちの様子は、古絵図や発掘調査から分かってきたものです。「辻子」のような路地は京都に限らず、海外にもあり、具体例として先生が赴かれたパリやフィレンツェ等が紹介され大変興味深いものでした。

文＝和田野美久仁

景観・まちづくり大学

京のまちづくり史セミナー

先人の取組を学ぶことで、これからの京都のまちづくりを考える。

まちづくり実践塾

まちづくりに取り組む際の具体的な工夫について、専門家や活動事例から学び、意見交換を行う。

京のまちづくり史セミナー 続々企画中！

秋季：「京の道とまちあるき」（秋季３回予定）

冬季：「京の景観講座」

まちづくり実践塾　第１回

7/31 開催！

「地域情報」の効果的な発信についての考察　— 紙媒体編 —

講師：日沖桜皮氏（株式会社桜風舎代表取締役・株式会社コトコト取締役編集長）

メディア特性の違いを伝える日沖氏

今年度、第一弾のまち塾は、「地域情報の発信」をテーマに講師による情報提供と参加者を交えた意見交換を行いました。

講師の日沖氏からは、編集者としてのご自身の経験を交えて、チラシや広報誌などの紙媒体をつくる際のポイントについてご報告いただきました。ここでは、そのほんの一部を紹介します。自ら検索しなければならない Web に対して、チラシや広報誌などの紙媒体は、回覧や各戸配布など受け取る機会は多くなります。しかし、読まれずにそのまま捨てられると大切な情報は伝わりません。そこでポイントです！

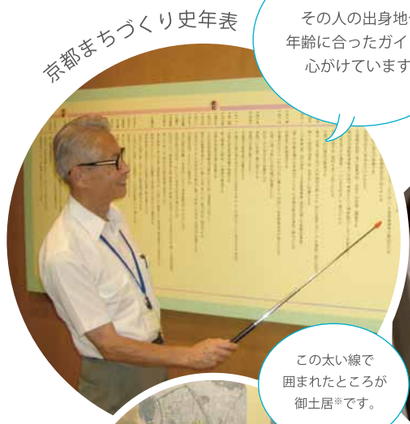
印象的な写真やキャッチーなタイトルをつけることが大切。その上で行事の開催場所や時間など、必ず伝えなければならない情報は、「must 要件」として記載。紙面が限られ伝え切れないことは「続きは Web で！」など電子媒体につなぎ情報を補完。

では、この続きは、センターウェブサイトで！

文＝田中志敬

「京のまちかど」で歴史をのぞく

— 京のまちづくり史セミナー　第１回　同日開催 —



京のまちかどって？

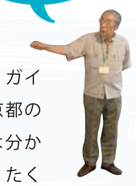
平安京に始まる京都のまちの成り立ちやまちなみの移り変わりから、近現代の生活やまちづくりを分かりやすく紹介する展示コーナーです。

※御土居：豊臣秀吉によって作られた京都を囲む土塁。

江戸末期の四条河原町を再現しています。

床面の航空写真

パネル展示



「京のまちかど」ガイドツアー開催

京のまちづくり史セミナーと同日開催で、「京のまちかど」ガイドツアーを開催しました。ガイドを務めるのは、普段から「京のまちかど」で活躍するボランティアのみなさん。様々な京都のまちづくり史にまつわる話をしながら、「京のまちかど」を巡り、一人で見ているだけでは分からない「京のまちかど」の魅力をまちかどボランティアの皆さんにお伝えいただきました。たくさんの方に参加していただき、ツアー終了後もたくさんの質問や様々な京都のまちの話あり、裏話ありで盛り上がりました。

近代の洛中洛外図

「京のまちかど」には、京都のまちなみを再現した模型やタッチパネル式の映像装置、年表などがあり、京都のまちづくりを楽しく学べます。また、「京のまちかど」の案内ボランティアの詳しいガイドも聞けるので、京都のまちをよく知っているという人も、新しい発見ができるはず！

「京のまちかど」に来て、あなたも京都の歴史を旅しませんか？

（※ガイドは随時行っております。お気軽にお問い合わせください）

文＝片山尚彦、和田野美久仁

そういえば、、、
京都はとっても細い道が多いね。
行き止まりもたくさんよね。

アメリカにはないなぁ。

京町家まちづくりファンドの取組

京町家 まちづくりファンド PRイベント

びっくり！「エコ100選 2010」参加

平成22年8月4日（水）～9日（月）
髙島屋京都店7階グランドホール

京町家の夏のしつらい、涼しげな簾戸を紹介

京町家まちづくりファンドのPRブースを出展しました。

京町家まちづくりファンド委員 ジェフ・バーグランドさん

びっくり！エコ100選って？

人の流れに飛び込んでエコの種を蒔こう！「びっくり！するほどエコな話題」を100個集めて一挙公開、毎年8月に開催。

主催：びっくり！エコ実行委員会

びっくり！エコ100選 2010　京町家ワークショップ「町家で過ごす夏の夕べ」

夏の京の涼を体感

平成22年8月8日（日）17～20時
四条京町家
食材提供　伊根町 / 京都青果合同㈱ / ㈱ドール

1 おくどさんでご飯を炊く

「音も楽しんでください。」

おくどさん（かまど）の薪の火で炊いたご飯はつやつやと、お焦げも香ばしく。

2 おばんざい料理実演（伏見とうがらしのじゃこ炒め）

「ごま油で丁寧に炒めます。」

町家だいどこ姉小路　KiKiさん

3 小泉さんの唄とお話

「町家も呼吸してるんや。」

NPO法人四条京町家　理事長
小泉光太郎さん

夏のしつらいの京町家で、和やかな楽しい時間を過ごしました。

葦ペン画でめぐる、京都・暮らしの風景

十軒長屋（出水元学区）　― 平安宮内裏跡 ―

100年余りその重みに耐えてきた軒。その撓（たわみ）に愛着を感じ描いた。ご苦労様これからも頑張ってやの思いを込めて…。狭い道にひしめく家並みはいかにも京都らしいが、ここが平安宮内裏跡とは…。ちょっと千年の歴史をのぞいてみたくなった。

藤田 輝二

高校卒業までを西陣で過ごし、サラリーマン生活の傍ら、40歳を前に本格的に風景画を学び始める。66歳の退職を前に原点でもある京の町並みを描いた個展「京のわらべ唄を描く」を開催。他「祇園祭山鉾展」など。現在は京阪特急の車内でも作品を楽しむことができる。

絵と文＝藤田 輝二

今秋開催

京町家 まちづくり散歩＆ツアー「出水編」

聚楽第の跡地としても知られ、豊富な地下水の恵みを受け、酒蔵や豆腐屋が営まれてきた出水。葦ペン画で描かれている長屋の一軒はファンドの助成を受け再生された「コレクティブ京町家こまちや（京まち工房50号参照）」です。この秋、一緒にあるいてみませんか？

詳しくはHPをご覧ください → http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

京都まちづくり学生コンペ2009 堀川商店街実現化企画

「堀川ツミキProject」

― 堀川まつりにおける空き店舗を利用した学生の取組 ―

平成21年度に開催した「京都まちづくり学生コンペ2009」では、京都の近隣型商店街とまちの活性化をテーマにアイデアを募集しました。
コンペ終了後も、提案されたアイデアを地域や社会に対して情報発信していくため、発表の場や展示会などを設けてきましたが、その中で平成22年1月に展示会を開催させていただいた堀川商店街からお声かけいただき、今回の実現化へとつながりました。

合同プロジェクトチーム結成！

1 神戸大・京大の合同チームによる企画会議

昨年度のコンペで堀川商店街について提案し、入賞した神戸大学大学院と京都大学大学院の2グループの学生が合同でプロジェクトチームを結成し、商店街に木製のストリートファニチャーを設置する神戸大学の提案と、商店街や周辺地域のコミュニティ活性化を目的とする京都大学の提案をもとに、企画会議を幾度も開いてきました。

ファニチャー製作中！

2 プロジェクトの拡大

途中から立命館大学の学生も会議に参加し、ファニチャー製作や会場設営では京都工芸繊維大学や京都府立大学の学生、地元工務店の協力も得るなど、多くの人を巻き込んだプロジェクトとなっていきました。

「TSUMIKI no MA」フライヤー

完成！

3 地域の情報発信コーナーの完成

空き店舗を活用した情報発信及び休憩スペース「TSUMIKI（ツミキの間） no MA」

［期間］
平成22年8月6日・7日の2日間（堀川まつりと連動）

［展示内容］
木製ストリートファニチャーと古写真による照明を配置した休憩スペースの運営

近隣地域の古写真や堀川商店街の模型、地域の歴史や商店街についてまとめたパネルなどの展示

上記パネル内容と本プロジェクトの取組経過をまとめた映像の上映会

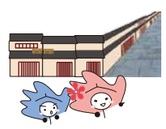
「京都まちづくり学生コンペ 2009」で堀川商店街を対象とした5作品の展示

堀川ツミキProject

成果と今後

今回の企画実現は、堀川商店街協同組合や京都商店連盟の協力、㈱ゼロ・コーポレーションからの協賛など多くの方々からの応援を受けて叶うこととなりました。
また、まつりの期間中、子供からお年寄りまで多くの方々にこの「ツミキの間」を利用していただき、地元住民や商店主の方々からは昔の近隣の様子や商店街の歴史について話を聞くなど、地域と学生のつながり・交流の場が持てたと感じています。

今回、空き店舗をお借りして行った展示を今後はコミュニティホールに移し、引き続き聞き取りや地域と商店街をつなぐイベントなどの拠点として運用していくよう、学生を中心に取り組んでいきたいと思います。



あ！ここはきれいな石畳になっているわ。

文＝木戸環希

歴史の詰まった京町家を「直して貸す」

— 京町家保全・再生の事例 —

お父様が借家経営していた町家を島津さんが引き継いだのは、約3年前。
柱は腐り、梁は白蟻に食われ、裏手の軒が落ちた傷んだ家でした。
傷んでいるけれど歴史の詰まった京町家が新しい住居人をむかえて生まれ変わりました。そんな事例のご紹介です。

関わった人々

- 島津さん　大家さん
- 内田さん　改修設計者・居住者
- 内田さんの奥さん　居住者
- 作事組　京町家の再生に携わる職人集団

これまでの道のり年表

- '03頃　借家人さんが退去　空き家に
- '07　島津さんが物件を管理することに
- '08
- '09 11　京町家まちづくり調査の新聞を読み、センターへ相談　専門相談実施
- '09 1　再度専門相談を実施
- '09 3　改修に関する団体さん、助成金等の情報を送付
- '09 10　作事組へ相談に　相談調査を実施
- '10 11末　工事開始
- '10 3　工事完了　内田さんご家族が入居

自宅縁側

島津さん　内田さん　内田さんの奥さん

色々な投資の中で、直して貸す方がよいと思った。

大学生の娘が町家改修のボランティアをしていたこともあり、町家再生の取組がされていることは知っていました。しかし、当時は建替えかこのまま使うか悩んでいました。
自分自身は新築の家に住んでいるので、こういう文化や歴史のある家への憧れの気持ちを持っていたことも、こうやって再生・活用しようという後押しになっていたのかもしれません。
全体的に傷んでいたので、確かに改修の初期資金の工面はとても苦労しましたが、家賃が10年後には純利益になることを考えれば、良い投資なのではないかと思っています。色々と苦労はしましたが、今一番嬉しいことは、安心して貸せる、内田さんが住んでくれていることです。

傷んでいるけれど、直せる。

はじめて調査に行った際、あちこちが傷んでいたものの、作事組で色々な物件に関わってきたこともあり、経験から「直せる」と感じました。しかし、技術的には改修が可能でもその費用がネックになることが多く、その点が心配でしたが、島津さんからは、直るなら直そうという覚悟が感じられました。工事では、構造がつながっている隣家との間の雨仕舞（屋根の形状が違います）や、下がった床を水平に戻すこと（隣家も一緒に上げました）等、大変な作業の連続でした。また、ハシリニワや前栽は暗くて湿気でじめじめしていましたが、離れを解体し、火袋を復元し、採光と排水に気を使った結果、たくさん雨が降った今年の梅雨の湿気にも困りませんでした。
また、家に合う建具を見つけるため、何度も古建具屋さんに通い、今ではとても落ち着く住まいとして、日々過ごしています。

縁側、階段。ほどよい段差（障害）が子育てに適しています。

きっかけは、改修の相談を受けた時、思い切って「借りれないの？」と聞いたことでした。フロ、トイレ、キッチン、書庫など、自費で納得いくように改修することを島津さんが了承してくれたので、お借りすることに決めました。
子育てをする上では、「裸足」がキーワードです。そのまま庭に行ったり、畳や板の間を直に感じられるところがよいです。
部屋の真ん中にある赤いレトロな机は、実家の倉庫から引っ張り出してきました。単なる貧乏性かもしれませんが、あるものを大事にしていければよいな、と思っています。

Q. 今後このお家をどうしていきたいですか？

- 内田さんにずっと住んでもらいたい
- 長いこと住んでいきたい

長く快適に住むために…

工事後の点検

作事組では工事完了後、直接の担当者とは別の設計・施工担当理事により完了検査を行うそうです。そして、四季の変化を経て素材が落ち着く1年後、同じメンバーで再度検査をし、あわせて手入れの方法や使い方のアドバイスなどもされているそうです。客観的なチェックをすることで、所有者により安心して頂けるサポートを心がけているとのことです。

文＝木下良枝

「京町家まちづくり調査」の盟友集まる

— 京町家まちづくり調査員のみなさま、本当にありがとうございました！ 活動報告会を開催 —

平成20年度から21年度にかけて実施した「京町家まちづくり調査」の活動報告会を7月4日、五條楽園歌舞練場にて開催しました。100名を超える調査員の方々にご参加いただき、全91回、延べ3,300名による活動を振り返る中で、改めてボランティアの方々の熱意に支えられた調査であったと実感しました。

報告会では、立命館大学による最新の地理画像情報システム（GIS）を駆使した集計速報のプレゼンテーションが行われました。「京町家まちづくり調査」の結果から見えてくる様々な課題やその解決の可能性が感じられました。

その後、10名単位のグループに分かれて、「あったらいいな、こんな制度・しくみ」「私たち（私）はこんなサポートができる」というテーマのもと、ワークショップを行いました。調査員の方をはじめ参加者全員で、調査結果を生かしていくためのアイデアや、調査員の方ご自身の今後の活動についての展望や意見を出し合い、京町家保全・再生活動の新しい展開に向けて語り合いました。専門調査員、一般調査員の方々からたくさんの前向きな意見が出されました。中でも、多くの一般調査員の方々が、今後も京町家を支えるためのボランティア活動を継続したいと考えている事がわかり、とてもうれしく、頼もしく思いました。

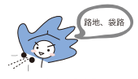
GISを利用したプレゼンテーション

ワークショップの様子

京町家まちづくり調査は、平成7・8年度、市民の有志による都心部での調査をきっかけに始まりました。京町家まちづくり調査は、今回で3回目となりましたが、幅広い層のボランティア、京町家に関わる専門家、市民団体、職能団体、大学関係者、京都市、当センターの協働によって実施することができました。この間10年以上にわたる、京町家の所有者・居住者のみなさんの主体的な取組や、京町家に受け継がれる技術や文化の継承、所有者へのセミナーや相談対応等、京町家に関わる様々な活動が展開されたことによって、京町家を支える人々の層が確実に拡大してきたのだと思います。
今回の調査においても、「専門家の方と一緒に町家を見て回ることが何より楽しかった。」という一般調査員の方の声がたくさん聞かれました。「京町家まちづくり調査」の活動そのものが、京町家を支える層を広げる運動となったようです。これからも、御参加頂いた調査員の方々の活躍が、京町家の保全・再生の支えとなるのではないか。そんな期待に胸をふくらませた一日でした。

文＝浜谷冨美子

これは「ろおじ」って言うんだよ。京都のまちには何千もあるんだよ。



古きよきまちなみが残っているところも多いんだよ。

私と京都

京都商店連盟 副会長　市村 勝

まちを創る時代

私の住む下京区の大内学区は、大正７年に京都市に編入され、下京区の第 35 学区となりました。ちょうどその頃、周辺に住宅や店舗が増え、商店街の形ができることで、従前の花街文化を引き継ぎながら、地域コミュニティが形成され始めました。
私の所属する嶋原商店街は、旧六花街の島原の門前商店街で、嶋原の花街の栄枯衰退と共に歩んでまいりました。かつては置屋が約 50 軒、揚屋が約 20 軒ありましたが、時代とともに減少し、現在は、2 軒となりました。しかし、「角屋」は日本で唯一現存する揚屋様式の建物として、また、「輪違屋」は、営業を続けているお茶屋として、当時の雰囲気を今に残す地域の財産であると同時に、観光客にも人気を博しています。
私は、京都で生まれ育ち、昭和 43 年より、現在の家業（ビューティーショップイチムラ）を継ぎました。当商店街の前身である商店街協同組合時代（昭和 23 ～ 46 年）は大変活気に溢れた時代で馴染みの八百屋、肉屋、魚屋が軒を連ね、家族連れの買い物客で商店街は賑わい、子供たちも駄菓子屋で目を輝かす光景がよく見られました。毎月 1･2 日の大売り出しの日には、各店に行列ができていましたし、私自身も子供の頃に、商店街のお肉屋さんが店頭で製造した、いちご入りアイスキャンデーをよく買って食べた思い出があります。

その頃の商店街の活動としては、恒例の夏祭り夜店大会、馴染みのお客様を対象とした招待旅行のほか、さまざまなイベントを実施しておりまして、自然に近隣住民との触れ合いができていました。そこには、毎日顔を合わせる者同士が交わす会話の中に、生きた情報が溢れ、地域特有の暗黙のルール、子供たちの教育や防犯対策ができていたような気がします。商店街が地域に果たす役割は、大変大きなものでした。

商店街は、特徴、特性、立地などによって、中心市街地型、広域型、地域型の大きく３つに分類できますが、嶋原商店街は、地域密着型商店街に属し、昔ながらの固定客を有し、地域特性を最も熟知する存在として、人々の生活の基盤であると同時に地域ごとの色や雰囲気を創る役割を担っています。「地域コミュニティを計り、地域の住民の人々に愛される商店街」を目指していますが、個店の活力低下による空き店舗や後継者不足などの課題を抱えています。大型店の相次ぐ出店や人口の減少などの環境の変化が、消費者の買い物行動を変化させ、利便性のみが求められるようになりました。対応に遅れた多くの地域型商店街は、大きな打撃を受けました。加えて、世界同時不況が追い打ちをかけるように、厳しい状況が続いています。
私は、京都商店連盟の地域密着型対策委員長として、地域密着型商店街の活性化に関するアイデアを学生から募集する（財）京都市景観･まちづくりセンター主催の「京都まちづくり学生コンペ 2009」に協力をさせていただくなど、京都の地域型商店街全体の活性化を担い、また嶋原商店街の理事長として「嶋原太夫道中」を実施し、商店街の沿道を提灯の灯りで彩る「嶋原灯路」を展開するなど、嶋原文化を発信してきたほか、地域人としても下京町衆フォーラムメンバーに属し、伝統文化の普及に努めてまいりました。
地域と関わり、そして貢献する方法はたくさんあると思います。私がかつて経験した商店街の風景をそのまま取り戻すことは難しいかもしれませんが、地域における商店街の新たな役割を模索することは可能だと考えています。利便性のみを求めるのではなく､｢小さくて個性的｣な特色ある自分のまちを創る。まちは、存在した時代から、創る時代になったのだと思います。地域を支える地域密着型商店街には、やるべきことがたくさんあるはずです。私は、地域と商業の両方を一体の関係と捉え、商売人として、また地域人として、その両方に貢献していくことが、私の役割だと考えています。

ふっきーの徒然なるままに

ふっきー
正義感が強く、いつも町内の皆のことを気にかけている真面目なリーダー。

第５回　日本の伝統と文化　― 継承 ―

もう30年近くも前になるだろうか。第2次オイルショックの後半頃、ある会議でエネルギー問題が話題に上ったことがあった。出席者たちは時間も忘れてそれぞれが思い思いに持論を展開していた。その議論が一定落ち着いた頃合いに、その会議の主宰者が「本当に危機感を持っているなら、世界の人が 50 年前の生活に戻ればよい。」と然りげなく発言してその会議を終了した。

主宰者は、為政者を含め騒いでいる人たちに対するある種の警鐘と皮肉を交えた極論を言ったのであるが、その場の人達は冗談と受け止めたか、「そんなことはできませんよねえ。」と言い合いながら三々五々その場を後にしていったのである。

それから 10 数年経った平成 9年の COP3 を契機に、地球環境に対する課題（今流行りのアジェンダである。）からエネルギー問題が大きく浮上し、「DO　YOU KYOTO ？」へと進んでくるのである。

伝統建築による歴史的町並みの保全、継承という観点が表に立っていた京町家の保全、再生も、今や、誰もが言い交したように、「地球環境にやさしい京町家と京町家での暮らし方」を旗印に「暮らしの文化を支えてきた京町家…」というような修飾を付ける。しかし、この時の「暮らしの文化」とはどういう意味で使われているのか語れる人がどれぐらいいるのだろうか。「中庭から自然を取り入れ…、季節ごとに設えを替えて…」等々､その状況を単に言葉の上で擦ぞっているだけではないのだろうか。どのような暮らしが、或いは時代的背景が町家の形態を生みだしたのか。その必然性がどこにあったのか。そして今の時代にあって何を継承する必要があるのかなど、真髄を本当に理解したうえで、再生或いは活用を語る必要があるのではないだろうか。

京町家に限らず、日本の伝統的な建築文化は世界に誇るべきものがある。これを「技」と共に継承していくことは重要なことであり、意義のあることである。しかし、それをそのまま現代の日常の暮らしの場として活用していくにはそれ相応の覚悟もなければ実際には具現化が難しいことになる。どのような文化が町家の形態を生みだしたのか。今の大方の考え方は、陰陽を逆にしているのではないだろうか。

スタッフのつぶやき

スタッフ　M.W
平安時代フェチ。
二十歳で十二単コスプレ。
衣紋道を極めます！

京都に来て、一番特徴的だなと思うことは場所の表し方です。
縦の通りと横の通りの名前の組み合わせで、行ったことないところでも大体どのあたりか分かってしまうのは、慣れるまでは戸惑いますが便利ですね。
他の都市でどう表すか思い返してみました。
大阪市内は地下鉄が碁盤目に通っているので、駅を中心に『○○駅の東』と言ったり､『○○駅と△△駅の間』と言ったり。
神戸だと東西を並行して通る三本の電車を基準に『阪急より北』、と言うことが私の周りでは多いようです。
京都にいると段々「当たり前」になってきた表し方ですが、こんなに町の名前よりも通りの名前が重宝されるのは珍しいなと思います。
他の都市ではどんな風に表わされるのでしょうか？